

## 箕輪町国土強靱化地域計画の主な改定箇所

箕輪町国土強靱化地域計画は、災害発生時における被害の軽減と早期復旧を図ることを目的として、ハード・ソフト両面からの対策強化を進めるための中長期的な計画です。今回の改定は、現行計画が令和7年度をもって最終年度を迎えることから実施するものです。令和3年の策定以降の5年間における取組や進捗の状況を踏まえ、軌道修正を行うとともに、新たな計画期間における目標を設定します。併せて現行計画期間中に発生した能登半島地震などの災害から得られた教訓を反映し、内容の見直しを行います。課名の更新や所管課の見直し等を除く、主な変更点は下記の2点です。

### 【空き家対策】

今年度、町が実施した調査により400件を超える空き家が確認されました。人口減少が続く現下の情勢を踏まえると、今後も更に増加していくことが見込まれます。所有者による適切な管理がなされないまま老朽化した空き家は、地震や風水害を契機として倒壊するおそれが高まり、周辺環境や住民の安全に深刻な影響を及ぼしかねません。こうした事態を未然に防ぐためには、老朽化が進行する前に、除却や所有者の変更等による利活用・再生を図ることが重要であり、災害時における人的・物的被害の軽減に向けて、欠かすことのできない取組といえます。

### 【災害時の電力確保について】

冷え込みの厳しい当町においては、冬季に災害が発生した場合、電力不足が災害関連死の直接的な要因となるおそれがあります。実際に、能登半島地震では約9割の家屋で電力の復旧に1か月を要しており、災害時における電力確保がいかに困難であるかが明らかとなりました。このような状況を踏まえると、災害時に安定的に電力を確保するためには、大規模な集中型発電に依存せず、太陽光発電やEV等を活用した自立分散型のエネルギー源を、平時から確保しておくことが有効です。